

株式会社ジェイコム東京 西エリア局

2022 年度放送番組審議会 議事録

1. 開催日時

2023 年 3 月 30 日（木）10:30 より

2. 開催場所

東京都小金井市梶野町 4-5-1 タカビル

株式会社ジェイコム東京 西エリア局

3. 出席者

会長 : 渡邊 嘉二郎 様

副会長 : 武田 千香 様

委員 : (ご出席) 込山 雄茂 様、柴内 康文 様、杉本 守啓 様、福本 眞也 様、

本川 交 様

(ご欠席) 廣田 豊之 様、柳下 豊宏 様

事業者側 : 西エリア局 局長 麻沼 茂岐、西エリア局 管理部長 片岡 美帆、
西エリア局 地域プロデューサー 小栗 悟志、西エリア局 管理部 山木 創馬、
株式会社ジェイコム東京 地域コミュニケーション統括部 奥田 貴一
小金井事務所 拠点長 小林 淳

4. 各委員ご挨拶

ご出席各委員のご挨拶、及びご欠席の委員について報告があった

5. 放送番組審議会 成立の宣言

規定第 4 条「委員総数の 2 分の 1 以上の出席」にて本会が成立することが宣言された

6. 放送番組審議会会長選任

会長に渡邊委員、副会長に武田委員が全委員の賛同をもって選出された

7. 事業者より放送内容及び議題番組の説明

事業者側から現況の報告及び J:COM テレビ（10ch）および J:COM チャンネル（11ch）
および今年度の取り組みについて報告があった

8. 議題（審議番組：「ジモト応援！つながる News」）

各委員からは、審議番組に関して以下のような意見が出された

- ・ 住んでいる市と違う市のニュースが知ることができて良い
また、スタジオから出て地元に来て撮影をすることにより、親近感を覚えた。スタジオで囲まれた状態では緊張して硬くなってしまうが、地元では出演者の動きも生き生きと映っているように感じる
曜日ごとに対象の市が決まっているが、「つながる News」が終わったあとに別の市を特集する番組が始まることで、視聴者が連続して J:COM チャンネルを見続けることができる視聴習慣を構築できるのではないかと考える
- ・ 今回の取材対象「小金井こども創作舞台プロジェクト」について、とてもすばらしい内容であった。こういった内容を今後も取り上げていただきたい
- ・ スタジオを飛び出して地元で放送を行う様子を観て、コロナ後の番組作りが始まったのだなと改めて感じた。これまで 3 年間なかなか思うように活動できなかったが新しいやり方で番組運営ができてきていると感じている。これまでの 3 年間のコロナ禍における番組作りについて、適当なタイミングで総括しておくのと良いと考えている
- ・ キャスターの得居氏が笑いを交えながら出演者の思いや言葉を引き出すことが上手く楽しく見られる番組であった
外で撮影している関係から周囲の雑音が放送に入ってきてしまう。マイクなどの機材や音量調整など技術的な問題で解決が可能なかわからないが改善可能であればお願いしたい
- ・ スタジオから飛び出して外で行っているが、場所が各市の 1 か所となってしまう。放送の度に市内の別場所で開催することができないかと考える。次回予告で場所を告知しておき視聴者や出演希望者を集める事ができないか。また時には市民特派員などと銘打ち、市民に番組コーナーを持たせ話してもらうようにしてみるのも手ではないか
- ・ ニュースで取り上げる話題について、話題毎にボリュームや映像映えに差が出てきてしまう。事前に打ち合わせを行い、ボリューム不足な話題については差し込み映像を付けるなどで放送内容の装飾ができると、見栄えが良くなるのではないか
- ・ この地域は文教地域であるので、学校などの取材を増やして子供たちからのニュースや出演を募るなどができるか是非検討をしていただきたい。子供が出演するとその家族も視聴する。そういったことで視聴の輪を広げていくとともに、地域の子供たちも元気になるのではないかと思う

8-1. 議題（審議番組：「ジモトに乾杯！居酒屋秀ちゃん」）

各委員からは、審議番組に関して以下のような意見が出された

- ・ 毎回二つの市町村からゲストが出演して 2 週間にわたる放送をしているが、内容の深掘りができているか見ていて疑問に思った。収録毎に一つの市町村にして一つを深く掘り下げると番組がもっと面白く

なるのではないか

- ・ 居酒屋としての設定が生きていないと感じる。お通しの一つも料理が出てこない、お酒もない店内でスタジオでのインタビューのように感じる。店主と常連客のようなフランクな会話で進む方が良いと思う
- ・ 番組の趣旨としては二つの地域それぞれから出演者を出し、地域と地域を繋ぐことも番組の趣旨と思っているが、その部分が弱いと感じる
二つの市が出演しているが、片方が話している際に、もう片方がほとんど無関心の状態で画面内に見える状態であった。これは視聴者も気になるところではないか。出演者同士の掛け合いがなく、それぞれと司会が話すのであれば一つの市町村の出演にすることが良いのではないかと思う
- ・ コンテンツについてはとても引き込まれる内容であった。コロナ禍で欠けてしまった人との繋がりをいかに復活させるか修復させるかという取り組みがこの地域で生まれつつあることを実感させてくれる内容であった
- ・ 毎月 2 回、1 年半もの間続いている番組ですでに膨大なコンテンツがある。これを活用できる方法があるのではないかと感じた。全国で共有できればより良いと考える
- ・ 出演するゲストの地域ごとに居酒屋を貸し切って収録を行うことができれば、その地元での話題にも上がりより地元密着で良い番組作りができるのではないか

事業者からは以下の発言があった

- ・ 番組のコンセプトとして、二つの地域からゲストをお招きして 2 種のテーマからクロストークを膨らませ、化学反応を生んで新しい接点や地域と地域をつなぐところに重きを置いているが、繋ぐ役割を果たし切れていないところについてまだまだ課題はたくさんあると感じている。ここについては改めて番組内容を検討し、出演していただいた方にも番組出演して本当に良かったと感じていただけるような、地域同士の繋ぎの役割を果たしていきたい。

9. 局長麻沼よりお礼とご挨拶

貴重なご意見の数々賜り有難い。頂いたご意見は制作側に確りと伝え今後の番組作りに活かして参りたい。

以上